

音楽科学習指導案

授業Ⅱ

4年1組 34名 指導者 榮留 由華

本授業は、以下の検証を行うものである。

歌詞と強弱記号の関連性について考えたり、グループ活動を通して音楽表現を高めたりする活動を設定し、子供が思いや意図をもつことができるようにすることは、歌詞や楽譜からよりよい音楽表現を追究し、解決していくという「深い学び」を実現するための手立てとして有効であったか。

- 1 題材 拍の流れによってリズムを感じ取ろう
教材 「いろいろな木の実」中山知子日本語詞／西インド諸島民謡／加賀清孝編曲
「ブラジル」バホーゾ作曲
「言葉でリズムアンサンブル」
「まきばの朝」文部省唱歌／船橋栄吉作曲
「風のメロディー」平野祐香里作詞／鹿谷美緒子作曲（本時主教材）

〔共通事項〕 拍の流れ、強弱

- 2 目標 拍子やリズムの特徴を感じながら、拍の流れによって表現する。
3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 友達の歌声や楽器の音を聴きながら、拍の流れによってリズム伴奏をしている。○ 発声や発音、フレーズに気を付け、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方で歌うことができる。	<ul style="list-style-type: none">○ リズムやフレーズを聴き取り、8分の6拍子の拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもっている。	<ul style="list-style-type: none">○ リズムの特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。○ 8分の6拍子の特徴を感じ取りながら、拍の流れによって歌う学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材では、これまでに身に付けてきた拍の流れや拍子、リズムに対する感覚やそれを表現するための能力をより伸ばしていくことをねらいとしている。

「いろいろな木の実」は、のびやかな旋律と歯切れのよい旋律で構成されていて、拍の流れによって表現することができる楽曲である。ギロやマラカス、クラベスによる特徴的なリズムを体験し、歌とリズム伴奏を合わせる楽しさを味わわせたい。「ブラジル」は、陽気な旋律に合わせてラテン打楽器の音色や特徴的なリズムを感じ取りやすい楽曲である。打楽器を演奏するまねをしたり、音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴き、打楽器が活躍する音楽のよさを味わわせたい。

「言葉でリズムアンサンブル」は、一つの言葉を素材にしたリズムを拡大、縮小させて三つのリズムをつくり、音楽の仕組みを生かしながら組み合わせ、リズムアンサンブルをつくる教材である。言葉がもつ語感やリズムの面白さを感じ取りながら、友達とリズムをつないだり重ねたりしてつくる楽しさを味わわせたい。「まきばの朝」は、日本語の語感を生かしたまとまりのある旋律であり、息つきや息のつかい方を学ぶのにふさわしい楽曲である。フレーズをとらえ、拍の流れにのりながら、のびやかな声で歌わせるようにしたい。「風のメロディー」は、旋律の音の動きから、曲の山をとらえやすい楽曲である。曲の山を中心として前後の強弱を工夫しながら歌わせるようにしたい。

このような楽曲を通して、これまでに身に付けてきた拍の流れや拍子、リズムに対する感覚をより一層高める学習を行うことは、友達と心を合わせて合唱や合奏に取り組む上で大切な基礎となり、今後の学習に生かすことができるものである。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、音楽科の学習に対する関心・意欲が高く、進んで表現や鑑賞の様々な活動に取り組む子供が多い。そして、表情豊かにのびのびと歌ったり、拍の流れを感じ取りながら歌ったりする子供が増えてきた。しかし、歌詞の表す情景と拍子のもつ曲想とを結び付けて歌うところまでは至っていない子供もいる。そこで本題材では、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり旋律の音の動きに注目して歌ったりする活動を通して、拍の流れによって曲想にふさわしい歌い方を工夫することができるようにする。

(3) 指導について

本題材では、これまでに身に付けてきた拍の流れや拍子、リズムに対する感覚をより一層高めることができるようにしたい。そのために、表現領域と鑑賞領域を関連付けて、効果的な学習が展開できるようにする。表現領域では、打楽器で特徴的なリズムを演奏したり、拍の流れに合わせて体を動かしながら歌ったりする活動を通して、4分の4拍子や8分の6拍子の拍子感を味わいながら音楽表現ができるようにしたい。また、前時の最後に録音した自分たちの演奏を聴いて、「もっと上手になろう。」という本時の意欲をもたせ、お互いの演奏を聴く時間を設定したり、終末の自分たちの演奏と比べたりして、鑑賞の時間を取り入れていくことにする。また、鑑賞領域の授業の中では、前時に学習した音楽表現について想起してから音楽を聴いたり、実際に鑑賞曲に合わせて打楽器で演奏したりする時間を設定し、より楽曲に親しみがもてるような学習の充実を図っていくようにしたい。

5 指導計画（総時数10時間）

次	主な学習活動	重点的な共通事項	時間
1	<u>いろいろな木の実</u> <u>ブラジル</u> 1 題材「拍の流れによってリズムを感じ取ろう」で学習することの見通しをもち、旋律の特徴やリズム伴奏の面白さを感じ取りながら歌う。	拍の流れ	1
	2 打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴き、拍の流れによって打楽器を演奏する。	音色	1
	3 旋律に合うリズム伴奏や楽器の組合せを工夫して演奏する。	リズム	1
2	<u>言葉でリズムアンサンブル</u> 4 言葉のリズムの面白さを感じ取り、アンサンブルをつくる。	拍の流れ 音の重なり	1
	5 つくったリズムを発表し合ったり、つないで演奏したりする。	反復、変化 呼びかけとこたえ	1
3	<u>まきばの朝</u> 6 情景を想像し、旋律の音の動きを感じ取りながら歌う。	旋律 フレーズ	1
4	<u>風のメロディー</u> 7 歌詞の表す情景と8分の6拍子のもつ曲想とを結び付け、拍の流れを感じ取る。	拍の流れ	1
	8 拍の流れを感じながら、強弱記号を生かして工夫して歌う。	拍の流れ 強弱	1 (本時)
5	9 発表会で歌う曲を決め、グループで練習をする。	拍の流れ	1
	10 学級で発表会を行う。	拍の流れ	1

6 本時（8/10）

(1) 目標

拍の流れを感じながら、強弱記号を生かして工夫して歌うことができるようにする。

(2) 評価規準

8分の6拍子のもつ拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫して歌っている。

【知識・技能】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では音タイムを設定し、拍の流れに関する音楽遊びをすることで、楽しい雰囲気の中で進んで音楽に取り組もうとする意欲を引き出すようにする。「追究する・磨き合う」過程では、歌詞の内容と強弱記号の関連性について考えたり、ペアグループで聴き合う活動を取り入れたりすることで、集団で思いや意図のこもった音楽表現ができるようにする。「振り返る」過程では、拍の流れや強弱についての観点で振り返らせることで、前時からの自分の変容を実感させ、本時の達成感を味わうことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 拍の流れに関する音楽遊びをする。 (音タイム) 学習とつなぐ ・ 体を動かしながら音楽を感じるのは、楽しいね。 2 拍の流れを感じながら、「風のメロディー」を歌う。 ・ 揺れながら歌いたくなるね。 ・ 2拍子のように感じながら歌うとよかったね。 3 学習課題を確かめる。 曲の山は、どうやって歌えばいいのだろうか。	○ 「音タイム」で前時までの学習を想起する音楽遊びをしながら歌うことで、楽しい雰囲気の中で、拍の流れについての興味を促すことができるようにする。 ○ 前時に学習したことを掲示したり、体を動かしながら歌うよう伝えたりすることで、拍の流れを感じながら歌うことができるようにする。 ○ 曲の山を中心に、書かれている強弱記号について確認していくことで、強弱記号の必要性について知ることができるようにする。 ○ 「最初の「しずかに～」のところは、どの強さで歌えばいいかな。」など発問することで、歌詞の内容と強弱記号の関連性について理解することができるようにする。 ○ 強弱記号について、「強い」「弱い」の意味だけでなく、様々な言葉で表現させて板書することで、歌う時の表現が広がるようにする。
追究する	10	4 強弱記号について知る。 ・ 今までの楽譜には載っていなかった、強弱記号が書いてあるぞ。 ・ どんな声で歌えば、強弱の違いが分かるかな。 ・ 最初の「しずかに～」は、ささやくように優しく歌いたいな。	○ 「最初の「しずかに～」のところは、どの強さで歌えばいいかな。」など発問することで、歌詞の内容と強弱記号の関連性について理解することができるようにする。 ○ 強弱記号について、「強い」「弱い」の意味だけでなく、様々な言葉で表現させて板書することで、歌う時の表現が広がるようにする。
磨き合う	20	5 強弱記号を生かして、グループで3、4段目の練習をする。 他者とつなぐ ・ 「おくりもの～」の前で、息をたっぷり吸えば、だんだん強く歌えるよ。 ・ 「風のメロディー」は題名でもあるから、口を動かしてはっきり歌おう。 6 ペアグループで聴き合う。 ・ 曲の山が一番盛り上がるように歌えていたよ。 ・ 最後の「こころのせて」まで、丁寧にきれいに歌えていたね。 ・ 自分たちの歌声にも生かしていこう。	○ 子供たちの思いや意図を楽譜に書き込むことで、全体で共有して音楽表現に生かすことができるようにする。 ○ 強弱メーターを活用してグループで練習させることで、強弱の変化を視覚的に捉えて、歌声に生かすことができるようにする。 ○ ペアグループで聴き合う活動を取り入れることで、友達の歌声のよさを感じたり、自分の歌声に生かしたりすることができるようにする。
振り返る	5	7 グループでの練習を生かして全体で歌い、本時の学習を振り返る。 自分とつなぐ ・ だんだん強くすると、曲の山が分かるように歌えるんだね。 ・ 強弱記号の意味が分かったから、この前よりも、声の強さを工夫して歌うことができたよ。 ・ 他の歌にも生かしていきたいな。	※ 8分の6拍子をもつ拍子感や、強弱の変化が生み出す曲の山を感じ取り、曲想にふさわしい表現を工夫して歌っている。(演奏聴取・発表) 【知識・技能】 ○ 学習の振り返りの時間を設定することで、自らの成長や変容に気付き、本時の達成感を味わうことができるようにする。